深谷中学校　学校だより　☎571-0451　http://www.fukaya-j.ed.jp

第９号
令和２年
12 月 25 日発行

志高く

自ら考え　学び続ける生徒
心豊かで　思いやりのある生徒
体を鍛え　やり抜く生徒

コロナ禍にも負けない「伝統」という環境を繋ぐ　―『返報性の原理』―

石　川　　浩

「年々歳々花相似たり。歳々年々人同じからず」（ねんねんさいさいはなあい に）　花は年ごとに変わることなく咲きますが、人の境遇は年ごとに変化していくものです。変わることのない自然に対して人の世の移ろいやすさを表す時によく使われる漢詩です。深谷中学校には、開校当時に深谷市の花であった椿が何本も植えられていて、寒さが厳しく彩りが不足するこの時期に、凜とした赤い花で学校を飾ってくれます。

コロナ禍の勢いは依然として衰えず、却って拡大している状況です。例年より短くなりますが、明日から冬休みに入ります。現状を踏まえ、市内の全中学校において冬休み中の部活動は中止とすることにしました。**部活動を中止としなければならない理由を一人一人がしっかりと考え理解し、自分や身近な大切な人を守るために、不要不急の外出は厳に慎む**ようにしてください。

先日会議の中で深谷市の教育長さんから『返報性の原理』という言葉を教えていただきました。**「他の人からよいことをしてもらうと、何かお返しをしなければという感情を抱く」という心理が、人間にはある**というのです。そして、教育長さんは続けてこんなお話をしてくださいました。

－横断歩道で歩行者が待っている状況で、車が止まって歩行者を横断させる割合は全国平均で８％しかないが、長野県ではその割合が 70 ％にも達する。なぜか？長野県の学校では「横断歩道で待っている時に車が止まってくれたら必ずお礼のお辞儀をする」ということをもう何十年もずっと教えていることがその理由ではないかと分析されている。何十年も教えられているから、当然両親も祖父母もそうした行為を理解し身に付けている。**子供たちは学校で教わるだけでなく、日々身近な大人の行為・習慣からも学んでいる。**そして『返報性の原理』である。車を止めてもらった経験のある人は、横断しようとしている歩行者を見たら自分も止まって歩行者を横断させようという感情を抱く。子供たちも、「車を運転するようになったら私も…」という感情を抱いて大人になっていく。よいモデルを示し続ける循環が、長野県に**美しいマナーと習慣を根付かせている**のだろう。－

心にストンと落ちるお話でした。深中の周辺の状況を振り返ってみると、横断歩道を渡ろうとしている生徒を見て止まってくださる車の割合は優に８％を上回りますが、70 ％には到底届きません。止まってくれないドライバーを責めるのではなく、逆の立場から自らを見直し改めることも必要なのではないでしょうか。**環境に育てられるだけでなく、環境を創る努力も担っていきたいものです。**

例年であれば、深中三大行事を中心に、生徒が主体となる様々な行事や活動が行われる２学期ですが、今年はコロナ禍のためそのほとんどを中止か縮小という対応をとらざるを得ませんでした。生徒たちの落胆は相当なものがあったはずです。しかし深中生はコロナ禍でさえ**前向きに捉え、この状況で何ができるか、どうすればできるかを考え、状況に応じた工夫**を始めました。部活動で３学年揃った活動がほとんどできなかったことを踏まえ、部活動ごとに縦割り班を組織して行うスタンプラリーを生徒会本部が企画・実施しました。３年生が最上級生として後輩たちと仲よく活動するとともに、**深中生とあるべき姿を３年生が示し、後輩がそれを見て学ぶ機会とした**のです。コロナ禍にあっても**『返報性の原理』の循環を途切らせず、深中のよき伝統は引き継がれています。**

深中の椿も、年ごとの気候に合わせて咲く時期を微妙に変えていますし、陽の当たり具合や木によっても花の大きさや咲き方も違います。「年々歳々花相似たり」とはいっても、決して「同じ」ではないのです。そうした花や自然の**生き抜く強さ・したたかさ**を、コロナ禍の中で深中生は学び・身に付けることのできた２学期でもあったと、今振り返っています。

令和２年も間もなくその幕を閉じようとしています。**本年は特に、様々な面で保護者の皆さま、地域の方々の深いご理解と力強いご協力に支えていただきました。心より感謝申し上げます。**

2学期を振り返って

2学期終業式の中で、各学年の代表が今学期を振り返るとともに、3学期への決意を語ってくれました。その一部を紹介します。

新　真歩 さん
１年３組

例年より早く、残暑の中でスタートした2学期。その中で気づいたことや考えたことが3つあります。

1つ目は勉強です。内容が難しくなり、授業の進みも速くなりました。工夫して勉強しないとよい結果につながりません。授業に真剣に参加し、自分に必要な自主学習を考えて取り組み、テストに向けた計画的に勉強することが必要です。また、自分に合った勉強方法を見つけることも大切です。

2つ目は部活動です。優しい先輩とたくさんの仲間と毎日楽しく活動しています。新人戦に向けて部員一丸となって練習しました。練習試合で他校の選手と交流できたことも楽しかったです。冬休みはコロナ禍のために部活がないので、家でﾄﾚｰﾆﾝｸﾞし、ﾁｰﾑに貢献できるﾌﾟﾚｰﾔｰになりたいです。

3つ目は学年体育祭です。短い準備期間で少ない競技でしたが、ｸﾗｽで団結し全力で取り組み、思いきり楽しめました。全員ﾘﾚｰで転びケガをしてしまった子がいました。ｸﾗｽ全員が、結果よりもその子の心配していました。ｸﾗｽの絆が強くなっていることに気づき、忘れられない思い出になりました。

コロナ禍のため様々な行事が中止・縮小される中で、私たちはできること一つ一つを大事にし、その時々の状況の中で新しい生活様式のﾙｰﾙを守って、存分に楽しみ、協力する力を身に付けています。みんなで協力すれば、逆境さえ楽しみ乗り越えていけると気づきました。今年だから味わえる充実した2学期でした。1学年のたくさんの成長も見られました。それは、全員が協力し、やるべきことを意識してやってきたからです。3学期も全員で意識してもっと素晴らしい学年にしていきましょう。

栗原　莉菜さん
２年４組

いつもより2週間早く始まった今年の2学期。臨時休校で短縮された1学期の分を取り戻すために、いつも以上に時間の大切さを感じながら過ごしてきました。この特別な2学期を振り返って感じたことを2つお話しします。

1つ目は深中三大行事の一つである体育祭です。例年なら全学年がクラスごとに全集中し、本気で取り組み競い合う場です。しかし今年は、学年ごとに2種目のみの開催でした。どう取り組むかをクラスで話し合う時間も短く、当日も学年別に2時間だけの体育祭でした。しかしその短時間の中で、クラスの団結を最大限発揮しようと、私たちは頑張りました。そして得た達成感と強い絆の実感は、忘れられないものになりました。仲間と共に、今までとは違う時間の使い方を学ぶことができました。

2つ目は、「世界の環境・医療」について一人一人が考えた総合の授業です。私たちはこの学習を通して、コロナウイルスの他にも様々な環境・医療問題があることを知りました。また、自分で決めたテーマについて様々な視点から調べ、自分の考えをまとめました。さらに発表会で友達とそれぞれの意見を聴き合うことで、自分とは違う視点からの見方や考え方を理解できるようになりました。このことは、私たち2学年の大きな成長につながったと感じています。

この2つのことから、私たち2学年は『違う』ということを踏まえた成長ができたと思っています。3学期は『志高の会』があります。一人一人が「大人」になる自覚をもち、自分の未来に向けてしっかりと考える機会にしていきたいと思っています。

關口　彩乃さん
３年３組

例年より長い今年の2学期でしたが、長くなったことでたくさんの思い出と成長を残せたと感じています。この2学期を、私は3つのことから振り返ってみました。

1つ目は行事のことです。今年の体育祭は学年別となり、私たちは最上級生としての姿を後輩の皆さんに示せませんでした。それでも2年間の経験を生かし、最後までｸﾗｽで団結し全力で取り組み、笑顔で終えることができました。ｸﾗｽや学年の絆を強められたと感じました。部活の後輩たちと一緒に活動する機会として、生徒会本部が新たな取組としてｽﾀﾝﾌﾟﾗﾘｰを企画してくれました。わずかな時間でしたが、この行事を通して私たちも先輩・最上級生としての姿を後輩に示せました。

2つ目は学年委員会で取り組んだ「TTｷｬﾝﾍﾟｰﾝ」です。きちんとしたあいさつと時間を守って行動することを私たち青学年の改善すべき課題と考え、それを改善するために学年委員会で取り組みました。班長や他の委員会の協力を得て展開したｷｬﾝﾍﾟｰﾝを通して、みんなで呼びかけ合い、一人一人の意識を高めることで課題の改善が進みました。青学年のｽﾛｰｶﾞﾝにある「理想像のモデル化」を一人一人が意識して自ら示し合うことができて、とても嬉しかったです。

最後の3つ目は受験勉強です。今私たちは、自分の進路を切り拓くために一生懸命勉強に励んでいます。朝早く登校して勉強したり、休み時間に友達と教え合ったりするなど、時間を有効に使って勉強する姿が見られます。入試までの時間は限られていますが、自分の未来を創るために今できることに全力を尽くしていきます。

2学期を通して得たものはたくさんありました。それらをこれからにしっかりと活かせるように、明日から始まる短い冬休みを大切に過ごしていきます。